

## 私の写生地

# 小鳴門海峡に沿って

名誉会員 黒崎 志郎

鳴門海峡の西側、瀬戸内海から南東方向へ紀伊水道まで狭い水道約数キロが小鳴門海峡で、満潮、干潮に伴い潮流が川の流れの如く無数の小渦が巻いて流れます。

海峡に沿った点在する小さな入江、そこは流れの外側で比較的静かであり船着場や作業場、集落があり独特の景観をみせてくれます。海峡は、沿う道路間近まで水深が深く、目前で小渦の巻く様は最初は恐怖感さえ覚えたものでした。さて大鳴門



▲ 小鳴門海峡沿いの道①



▲ 小鳴門海峡沿いの道②

潮流のバイパスともなっていて、漁船、貨物船が多く往来する小鳴門の小さな漁港めぐりです。

国立公園区域で大部分が山の中(地下部分)となつている大塚国際美術館裏側にある亀浦港は波静かな漁港であり、沖合には潮待ちの貨物船、タンカー等がよく見られます。堤防上を伝い画因を得、また濃き緑を映す船溜り等取材。鳴門スカイラインを越えて距離はありますが、小鳴門海峡の瀬戸内側の入口に北泊港

があります。亀浦とともに徳島県の最北部に位置。小鳴門海峡高架橋からその全景が望めます。北泊に通じる海峡沿いの道は狭く対向車には気を遣いますが港は広く俯瞰構図とは違つた取材も期待できます。港の裏山からも望める場所もあるかも。

少し南へ、堂の浦は背後の小丘や変化あるたたずまいの中、出入りする漁船(鳴門鯛の一本釣り漁師さんも比較的に多いとか)、風情を感じる港です。昭和四十四年頃だったか、榎原先生が夏期講習会に講師としてお越し下さつた折、写生地として選んだ場所でした。

紀伊水道方向に進むにつれて海峡幅は広がります。道路も海峡沿いから離れ、鳴門市街方向に近づいてゆきます。小鳴門海峡を挟んで大鳴門側の大毛島へは小鳴門橋など吊り橋道路橋が、本四連絡自動車道の他に二本、人、自動車等、地域のための県営渡しが二ヶ所あります。

小鳴門橋を東側(紀



▲ 高架橋上より船着場俯瞰



▲ 北泊漁港

伊水道方向)に降りて間もなく、  
 本かのクレインの動く造船所、更に  
 海峡に沿って東へ土佐泊地区には養  
 殖わかめ等に従事する船を中心に船  
 溜りが連続、背後の山々も神社等あ  
 り少し高位置からも取材できます。  
 大毛島が抱える内湾のスクノ海、  
 すぐ西側の島田島間のウチノ海、  
 いずれも鳴門海峡とは対照的な波静  
 かな内湾です。この二つの島を貫ぬ

く鳴門スカイラインがあります、  
 おすすめの展望ポイントとして小鳴  
 門海峡高架橋寄りの四方原展望所、  
 スカイラインからは北側に入ります  
 が、カリフォルニアテーブルとい  
 うレストラン喫茶があり、その海側の  
 テラスからの鳴門大橋方向の展望は  
 見所かと思えます。



▲ 亀浦港にて



▲ 堂ノ浦漁港①



▲ 四方原展望所より



▲ 堂ノ浦漁港②